小さな猛禽類「雀鷹（ツミ）」（11月の自然庭園では）　～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページではみぬま見聞館(大宮南部浄化センター)のトピックスを紹介をします。

小さな猛禽類「雀鷹（ツミ）」(11月に自然庭園で観察できる動植物について)

肌寒い風の吹く季節になり、自然庭園でも葉の色が赤や黄色に染まる紅葉の時期を迎えました。
今年の夏の猛暑に耐えた植物たちが力強く生き延びた証ではないでしょうか。

今月は昨年から現在まで自然庭園でよく見かけるようになった、日本の野鳥で一番小さい猛禽類である「ツミ」についてお話をさせていただきます。
ツミは、タカ目タカ科ハイタカ属に分類され、全長がオスは26センチメートル程、メスは30センチメートル程度です。「ツミ」は、漢字で「すずめたか」と書いて「ツミ」と読みます。雀の名が付くほど小さい「タカ」とされています。
「ツミ」は本来メスに付けられた名前で、オスは「エッサイ」と呼ばれていたようです。体格差のあるオスとメスでは狙う獲物が違うようで、鷹狩りが盛んだった頃にそれぞれ名付けられたようです。

小さくてもタカの仲間であるツミは、迫力のある鳴き声を持ち、朝の自然庭園でも特徴のある鳴き声が響き渡ることがあり、その存在を確認できます。
ツミは巣の周り50mに近づく敵には対応が厳しく、特にカラスなどに対して勇壮に立ち向かいます。このカラスが共通の敵であるオナガという鳥は、ツミの巣の防衛圏内に巣を作ることが知られています。オナガは時にツミに襲われることもありますが、それ以上にオナガの巣の卵を狙うカラスを遠ざけてくれる方が、オナガにとってメリットがあるのはないかと考えられています。

最近は、ツミをはじめ猛禽類が都市公園や街路樹など人の生活環境に近い場所で巣作りし繁殖するといった例が多く見られるようになっているそうです。実際に、当館の自然庭園でもオオタカの食事風景や飛翔する姿を、時折見かけるようになりました。
またツミの幼鳥を自然庭園で見つけ、最初は背中側が暗褐色、お腹側が淡褐色の羽毛で覆われ、胸に縦縞の模様があることを確認しました。後に同じ個体と思われる成長したツミを見つけ、胸の羽毛がオレンジ色になり、立派になった姿には、貫禄さえ感じ取れたこともありました。
このような猛禽類の生息場所の変化が、生物多様性にとってどんな影響があるのかまだわかっていませんが、良い方向に向かっていることを祈るばかりです。

猛禽類が飛来してくると、小鳥たちは身の危険を感じ移動してしまします。自然庭園でもツミやオオタカの迫力のある行動などを観察したいのですが、一方で小鳥たちは飛び去ってしまうので、複雑な心境です。
自然庭園の紅葉も日を追うごとに色濃くなってゆきます。紅葉を楽しみつつツミなどの野鳥を探しに「みぬま見聞館」の自然庭園を訪れてみてはいかがでしょうか。皆さんのお越しをお待ちしています。

ツミの幼鳥
胸の縦縞がわかります

ツミの幼鳥
羽繕い中でしょうか？！

ツミの成鳥

凛々しい姿は小さくても猛禽類です

ツミの成鳥

猛禽類だけあって嘴や爪が鋭いです

オオタカ

時折、自然庭園で食事する様子を見ることがあります

オナガ

美しい姿ですが、鳴き声はちょっと・・・

ホオジロ

アカハラ

イロハモミジ
鮮やかに紅葉します

ススキ
月見にススキ、秋を感じます